

第 部 ブログ作文技術

第 2 章 書く前に頭の隅に入れておこう

Q 02 どんな内容のテキストが読まれるの?

[BEFORE]

今日は風が強い。どうやら台風が来ているようだ。ニュースで聞いた感じでは、とても大きいらしい。

家が木造建築のうえ、すぐ近くに崖があるので心配。もしたらこの家、吹っ飛んでしまうかもしれません。「どうかそれてください」と願うばかりである。

[AFTER]

ギシ...ギシ。今日は風が強い。台風が近づいているらしい。台風は強さにより形容詞が変わり、強い、非常に強い、猛烈な、の順で強くなっていくようだ。そして、今回来る台風は最強の「猛烈な台風」。

台風は、1 分間の平均風速が 54.0m/s 以上のとき「猛烈な台風」と呼ばれる。この風速、いったいどのぐらいの強さなのか? と思い調べてみた。

10 分間の平均風速が、25m/s を超えると、どうやら大変なことが起こるらしい。まず、人は立てない。野外での行動は危険をとまなうようだ。樹木は根こそぎ倒れる。建造物もブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。適当に作ってる建築屋サン、ご愁傷様、バれますよ。

30m/s を越えると、屋根が飛ばされ、木造住宅の全壊が始まる。住宅建築における木造建築の割合は約 4 割。4 割の方、今のうちに逃げてください。屋根、吹っ飛びますよ。

1 分間の平均風速とはいえ、風速 54.0m / S 以上の「猛烈な台風」、その恐ろしさがおわかりいただけたらうか。4 割に該当する私の家で、今聞こえているこのキシみ、おそらく幻聴ではないだろう。書き終わるのが先か、ガレキと化するのが先か.....

(004) 多くの人が知らないようなことを書いたテキスト

たとえば雑学番組のような.....

ブログ、テキストにもいろいろな種類がありますよね。たとえば、日記、ニュース、ノウハウ・コラム、映画・書物批評といったもの。そういったテキストの中に、ちょっとしたスパイスとして入れると楽しいのが、今回の考え方です。

「多くの人が知らないようなこと書いてある」こういったテキストは、読者を惹きつけます。テレビ番組でもありますよね。誰もが知らない雑学をとりあげた番組です。どうでもいいか、役に立つかは別として、とても興味深く、楽しく視聴できます。テキストでも同じ。読者にとって、自分が知らないことを書いてあるテキストは、読んでみたくなるものです。

ニュース系テキスト

では、テキストの種類別に見ていきましょう。ニュース系テキストを書くなら、最新であればあるほど人目を惹きます。また、古い事件であっても、過去のありふれた記事より、誰もが知らないような後日談なら読んでみようと思う方が多いはず。英語が読めるのなら、海外のサイトを翻訳すると興味を惹くネタがいくらでも見つかるかもしれません。海外のニュースは、少しでもマイナーであると日本に入ってきませんから。

ノウハウ系テキスト

続いてノウハウ系テキスト。テキストの中でも、こういった種類のコラムを書くなら「人が知らないことは何か？」という視点がとくに大切ですね。専門的であればあるほど、マニアックであればあるほど良いと思います。人の知らない知識、雑学なら読者の興味関心を存分にひくはず。たとえば、香水についてのサイトなら、名前、どんな匂いかにとどまらず、その名の由来、エピソード、作られる工程……といった人の知らない情報で読者の心をつかみましょう。

映画・書物批評コラム

映画や書物批評も同じですね。ストーリーだけではなく、その映画、その書物について、多くの人が知らないような雑学をつけくわえてみましょう。出演者の話でもいいですし、生い立ち、出身、その映画に出演した過程などを書いて、面白いかもしれません。

「パソコンを見ている人の知らない情報って何だろう？」という視点でテキストを考えるのも、読者をひきつけるネタを見つける一つの方法。また、そういった情報をつけくわえるだけで、内容の質があがります。参考にしてみてください。

(005) 特殊な体験について書いているテキスト

前項を応用した考え方です。主に日記に適用できる考え方でしょう。

人がしてくれる体験談の中に、興味をそそられる種類の話があります。それは、「自分が体験したことのないような話」。逆に考えると、人がしていないような体験をテキストにすれば、読者に興味をもって読んでもらうことができます。

- ・ イラクに行ってきました
- ・ 露出狂になりました
- ・ パナナでこけました
- ・ ファールボールで大ケガ
- ・ 元彼が、女(?)になってました
- ・ 周りの人の不思議な習性で死にかけました...etc.

他人がしていないであろう体験であればあるほどよいのですが、残念なことにそういった体験はなかなかできません。コンスタントには書けないでしょう。そんな体験をみつけたときは、ぜひ書いてください。

(006) 誰もが目をつけないところに疑問点があるテキスト

特殊な体験について書かれたテキストは、読者の目をひきます。しかし、先ほど書いたように、そうそう書けるものでもありません。では、他にどんなテキストが読者を楽しませるのでしょうか。

同じことを聞いたり、同じものを見たりしても、人それぞれ感じ方が違います。目のつけどころも違うでしょう。読者を楽しませるテキストを書く1つのポイントは、この「目のつけどころ」です。

「そんなところに目をつけるのか」と読者に思わせるテキスト。それは、大変魅力的なものです。たとえば、

- ・ そういわれてみれば不思議だ
- ・ そういわれてみると確かにそうだ

と読者に思わせるような疑問点や指摘があるテキストです。

テツ and トモさんの、「なんでだろー 　なんでだろー 」をテキストでやっってしまう。

- ・ 子どもの喧嘩に大人が口出しすると、大人の喧嘩になってしまうの、なんで だろー？
- ・ ペットに話しかけると、人はなぜ、赤ちゃん言葉になってしまうの、なんで だろー？

といったようにです。

こういった内容のテキストを書くとき、本当の答えについては、それほど気にしなくていいですね。つまり、必ずしも正しい答えを導きださなくてもいいということです。「目のつけどころが違うな～」と思わせることができれば成功。指摘・疑問を投げかけるだけで、十分魅力的なテキストです。

ちなみに、あなたなりの答えを、こじつけてみるのも楽しいですね。

(007) 人が目をつけないところに新しい発見があるテキスト

目のつけどころが違うテキスト第 2 弾。みんなが見過ごしてしまうようなことに目を向け、新しい発見をしたり、人生を読んだりする。そんな内容のテキストは、非常に面白いものです。

- ・ 水族館でマグロを見た。マグロは止まると死んじゃうらしい。きっと、今の私はこのマグロと同じ。止まれない！止まれないのよ！！
- ・ ネコの視点で、生ゴミ問題を考えました。生ゴミは私たちを...
- ・ もし、私の父親がこの映画監督だったら、この映画は

先入観を捨て、いつもと違う視点で、もの・出来事を見る！ そうすれば、いつもと雰囲気の違うテキストが書けますよ。

視点を変える一番の方法は、立場から変えてしまう。マグロ、ネコ、といった動物の気持ちになってエッセイを書いてみたり、監督の娘になって、映画の感想を書いてみたり.....

見方を変えて、新しい発見を！！ 人と違う観点で、テキストを書いてみましょう。

(008) 普通は考えないことに筋を通したテキスト

目のつけどころが違うテキスト第 3 弾。通常、人が考えないことに筋を通したテキストです。人が当たり前と思って考えないことに異常な点を発見し指摘したり、常識なことが実は常識だと証明したりする。そんなテキストも、とても楽しいものです。

- ・ 禁禁煙！！煙草のススメ
- ・ 私はハゲを賛美する
- ・ もし、我々がウルトラマンサイズだったら...
- ・ 老化の楽しみ方

筋を通すのが難しいですが、通すことができれば個性的で、読者をいろいろな意味で惹きつけるテキストができあがるでしょう。

お題を考えるポイントは「非」常識。常識ではありえない視点でネタを考えたり、または、常識ではない結論を考えます。それに必死で筋を通していきましょう。筋を通すには、ある程度のこじつけが必要です。やってみる価値があります。できたテキストは、変に道徳的なものより、よっぽど個性的で、面白いはず。レッツトライです。

(注) この方法で作ったコラムは、その性質上妙な反響(反感)をかってしまう場合があります。気をつけください。え～なお、反感を受けた責任は、当方では受けかねます。ご了承ください<m(_)>

(009) 何かしら妙な雰囲気を持ったテキスト

何が違うでもないのに、何か人とは違う雰囲気をもっている人がいます。こういった人は、周りから一目を置かれるか、避けられるかはさておき、ある意味注目をされているといえますね。

テキストによっては、こういった人と同じような魅力を発している場合があります。特異な表現・文体で妙な雰囲気をかもし出すテキスト。魅力の受け方は読者それぞれなので、どういった理由によるものかは、簡単にいえませんが、それは、それは注目されるテキストです。

人が決して使わない文体・表現・間・方言で読者を惹きつける。こういう魅力を出そうとテキストを書いているのもなかなか面白いかもしれません。

こっそり書きますけど、一番魅力を出すのが難しい方法です。

雰囲気を作るためのポイントは、「サイトスタイルの確立」です。1回のテキストだけで雰囲気を作り出すのは、とても困難。なので、1つ1つのテキストを書いていく上で、ブログ・サイト全体に同じスタイルを貫くのが一番だと思います。ある程度のサイトの雰囲気、たとえば毒舌・皮肉系というように決め、試行錯誤を繰り返し、こっそりスタイルを確立していきましょう。貫くスタイルの確立も、ぜひこのパンフレットを参考にしてくださいね。

Q 03 個性的なテキストってどうやって書けばいいの？

[BEFORE]

「性格派の私」

相手を選ぶとき、容姿と性格、あなたはどちらを重視しますか？私は、やはり性格です。よくいうじゃないですか、「美男は三日で飽きる、ブ男は三日で慣れる」長く付き合えるのは、やはり価値観のあった男の人。見た目だけで惚れてしまっても、長続きしないんです。

はじめが見た目でも、最後は中身。容姿に自身のない男性のみなさん！内面を磨き、内からあふれる魅力で、私のような女性をゲットしてください(笑)

[AFTER]

「顔派の私」

男はね、男はね、内面内面内面よ...って...いうじゃな~い..... でもね...ぶつちゃけ、男は顔ですから~！残念！！切腹！！(波田陽区さん、すみません...)

あなたも今まで生きてきた中で、体験したことはないでしょうか？同じことをしていても、同じ性格をもっていたとしても、外見の良し悪しが原因で評価が変わり「損をした」、または「得をした」経験が... (私の場合は外見上の理由で損をした経験しかないが、読み手の多くは得をした経験の持ち主であるに違いない。)

たとえば、階下で大きなトランクを持ち、階段を上るのにあくせくしている女性がいるとする。それを助けようとする男性は、この女性にどう評価されるのであろうか。ある男は「親切な人」と評価されるだろう。またある男は「下心みえみえなのよ」と評価されるのだ(もちろん、前者が読み手の皆さんで、後者が私一人であることばいうまでもない。...例外はあるが)。

この「親切な人」と「下心みえみえ」の判断基準は、どこにあるか..... くもりなきマナコ(眼)で見定めてほしい。そう、男のビジュアルである。確かに私には下心があった。しかし、外見さえよければそんな下心などは見えずに、表面的な「親切な行為」で恋も芽生えたはずなのだ。

本当はどうしようもなく「いい人」であるのに、私のように外見が悪ければ、「人はイイ」と評価され、本当は「信念のしっかりしたイイ男」であるのに、外見のおかげで「ただの頑固者」といわれてしまうのである。だから、結婚会見で「彼のやさしいところに惹かれました」などという女性の言葉を断じて信じてはいけない。新郎の顔が悪ければ、きっかけすら生まれなかったのだから(...例外はある)。

まとめます。男は顔！以上(個人的な意見ですから、お気になさらずに)。

(010) いいちゃんにならず、悪の心を入れる

つまらないテキスト

道徳的なだけの文章というのは、面白くありませんね。なぜなら、そういった文章は、世界中であふれかえっているからです。ありふれた内容というのは、オリジナリティがありません。また、個性がないと、お隣のサイトさんとの差別化も、読者にはされないということです。

文章でなくとも、人にしあって、正論で責めてくる人よりも、個性的な意見をいってくれる人の方が、魅力的に感じますよね。それと同じです。

こういった具合で、道徳的な内容だけで、読者を楽しませるような、オリジナリティあふれるテキストを書くのは、難しいわけです。

どうしたらいいのか？

悪しき心、よこしまな考えを文章の中に入れる！

こういう悪の心、いわゆる「心の影」の部分は、普段他人に見せたりしない場所。つまり、心の内面、奥底の部分であるといえます。内面にふれればふれるほど、テキストはオリジナリティという「味」をかもしだします。ちょっとしたスパイスを効かせる程度でもいいんです。心の奥底にある悪の心を入れる……。ただそれだけで、あなたのテキストは、魅力ある面白いものに生まれ変わりますよ。

悪の心で二度おいしい

また、こういうスパイスの効いたテキストは、変に道徳的なものよりも「読者の共感を得られる」という利点があります。たとえば、こんな文。

「同期で入社した同僚が昇進しました。心から嬉しく思い、おめでとうといいました」

よりも、

「口では「おめでとう」といいながらも、心では、(なんであいつが?)とっていました。というも……。」

というテキストのほうが、これから先が気になりますし、共感もできそうですね。

やりすぎは禁物

といいまして、「なんでもかんでも悪い心を入れればいい」ということでもありません。いくら悪の心が興味を惹くといっても、読者が共感できる程度である必要があります。程度を越え、読者を不快にさせてしまえば、元も子もありません。それだけは気をつけてください。

(011) 世にあふれている考えを、まず否定してみる

オリジナリティあふれるテキストとは、何かしら人とは違う文章のことですよ。そういったものをひねり出し書くのに、最も適した思考法。それが、「世にあふれている考えを、まず否定してみる」です。

まず一般的に、もしくは周りの多くの人たちに信じられている事柄、常識を考えてみましょう。考え出したら、それを頭から疑ってかかってください。

「本当にそうなのか?」「もしかしたら違うのではないかと。」

要は、ひねくれ者の視点をもってみるということなんです。周りに嫌われている人・物に、実は愛すべき点がある

のではないかと常識と考えられているものに、実は筋の通らないところはないか？

周りの価値観にとらわれず、自分の価値観すら否定して、新しい考え、ものの見方を発見してください。その発見が新たな価値観との出会いであり、個性的なテキストを書きしずえとなります。

懐疑的な見方…… ブログ・サイトにエッセイを書くときなどは、ぜひ一度お試しください。

(012) 出来事の奥深くを「無駄に」読んでみる

裏を読む解釈法

エッセイや日記といったテキストで、人の行動や言動をネタに書くことがあると思います。そのときの解釈であなたのテキストを個性的なものにすることができるんですよ！ その1つのスタンス、「無駄に奥深くを読んでみる」という実践を紹介していきましょう。

無駄に奥深くを読むというのは、ある対象の裏を読むということです。対象にするものは、人の行動・言動、非人間(モノ)でもいいでしょう。非人間については(O13)で、その行動・言動が、表面的に自分に及ぼす影響にとらわれずに、その裏を読んで解釈していく方法です。

解釈法の2つのパターン

この実践でのポイントは「無駄に」の部分。「いや、そのままの意味でとらえればいいでしょ！」と思われるところで、わざわざ裏を読む。なんといいましても、その方が効果的です。

また、解釈のパターンは2種類あります。1つは相手を悪いように悪いように解釈するパターン「失礼な人化」。そしてもう1つは、自分にいいようにいいように解釈するパターン「おめでたい人化」です。

では、まず1つ目のパターン、「失礼な人化」で裏読みの例にいきましょう。

解釈法「失礼な人化」

(例)

「きゃきゃ」赤ちゃんが周りに笑顔をふりまいている。この母親は、こんな八方美人の赤ん坊を使い、何をたくらんでいるのやら……

(例)

男「今、彼女といるから…… ああ、悪い…」

ガチャ

男「ごめんね…… 初デートなのに何度も電話に出ちゃって」

女「いいのいいの！ 友達いっぱいいるんだね(^-^)(何回目？ どうせ来る前にワンギリ*何件もしてきたんじゃないの？ 頼りにされる男演出しちゃって…)

* (注)ワンギリ…1回コールして、後で相手にかけさせる行為。

(例)

あ、あいつと目があった。あ、奴とも目があった。まったく世の男どもは、私を女として見るのを止めようとしなない…… いやらしいのよ！

失礼な人化では、自分を捨て「失礼な人」を演じきって裏を読んでください。

解釈法「おめでたい人化」

続いて、「おめでたい人化」の例です。

(例)

「きゃきゃ」赤ちゃんが笑ってる……。「私を見て」。その笑い声とともに、車内が幸せで、おだやかな空気に包まれている。ああ、私がいるだけで、こんなにも人々が幸せになれるなんて…… 私って、私って

(例)

男「…今、彼女といるから……ああ、悪い…」

ガチャ

男「ごめんね 初デートなのに何度も電話に出ちゃって」

女「いいのいいの！友達いっぱいいるんだね(^-^)」(あら、何回目かしら…… あっ、さてはこの人、何件もワザワザしてきたのかしら。私と釣り合おうと必死なのね…男ってかわいい)

(例)

あの人私を見て、あっ、あの人も…あなたたちが悪いんじゃないの。悪いのは私。私のび・ぼ・う(美貌)！…
… ああ、私ったら、なんて罪な女なの…

2つの解釈パターンを紹介しましたが、どちらを使うにしろ、おおげさにするなりして、「あくまで冗談」だと読者に伝わるように使ってください。読者が画面に向かってツッコミを入れられるように書ければ成功です。お試しあれ。

(013) 「非」人間(モノ)と対決してみる

擬人法…… ですね。先ほどの(012)で出て参りましたが、「非」人間を相手に解釈したり、ツッコミいれたりします。たとえば、

(例)

ゴロゴロゴロガッシャー…スタン

俺「ぬをッ！ また1本残りやがった！ ちょっとへこむわ……」

友「いやあ、このボーリング場のピン、絶対10人に1人お前を嫌ってるね」

俺「……やっぱそうなのか？」

友「うすうすお前も気づいていただろうが…… やっぱそうだ。じゃないと9回連続1本残るのはありえん！」

俺「……だよ」

友「そう、お前のせいではない！」

俺「そうだ！ ピンが悪い」

友「そうそう！ その調子！！ピンも人を選ぶのさ！！！」

俺「そうだ、そうだ！ ……っておい！」

(例)

あ、あのマット、女湯行きか…… 奴め、いったいどんな手を使いやがった…… マット、俺だって替わるものなら替わってやりたい。女の足に踏まれるなど、さぞ痛かろう…… う、う、う、羨ましい！！ 替われ！ すぐ替われ！ …… と男湯マットが言ってます。

(例)

今日、通勤途中、私のカツラが巣立っていきました。風に…… 乗りたかったのでしょう。私の目には…

(例)

本日は、パソコンさんのご機嫌がうるわしく、クリスマスにちなんでかディスプレイを、緑や赤などのラインで彩ってくれました。残念なことに、他は見れません…… これって、ウイルスですか？ 誰か助けてください……

対非人間は、いろいろな場面で使えますので、ぜひ試してください。

(014) キャラづけ 「自分」

プロフィールを活かす

ホームページに自己紹介やプロフィールを載せている方がいます。ブログでもプロフィールを公表するスペース

がありますよね。今回ご紹介する実践は、そんなプロフィールスペースを、大いに活用する方法です。「自己紹介ページ、うちにはないよ！」という人も、お待ちあれ。そんなあなたもちゃんと使える技なので、ここであきらめずに読んでみてください。

キャラづけ 例

(例)

友達「今回彼女持ちのお前が、この合コンに呼ばれた意味はわかっているな？」

自分「相手5人に対して、うちが4人だからっす！」

友達「よし！人数合わせ要員の三原則を述べよ！」

自分「出すぎず、黙らず、持ち帰らず！！」

友達「そうだ！今回の相手のバストは、A～Bのスレンダー系。お前の血が騒ぐこともなかるう」

自分「はい！少なくともD以上じゃないと無理っす！！安心してください」

キャラ：巨乳、ポッチャリ好き

キャラづけ = 特化させた自キャラ

キャラづけ 「自分」とは、(そのままなのですが)自分にキャラクターをつけることです。ひとりの人にも個性、特徴というのはいろいろあると思います。背が低い、明るいがすぐ落ち込む、酒は飲めない、煙草は吸う、スポーツ好き etc..... キャラづけは、「これ！」と決めた、1つ(ないしは2つ程度)の特徴を特化し、誇張します。それを思い出したように、たまにテキストへと反映させます。

あらかじめ自分の中に、他の特徴とは明らかに区別されたキャラクターがあると、それにそった形で文章を書いたり、アレンジしたり、パンチを入れたりできます。何より、個性が出しやすいですね。読者にしても、「だからこいつが呼ばれたのかな？」といった想像が膨らみ、よりあなたへの親近感がわいてきます。読者の想像をかきたてられることが、この技、一番の利点です。

ポイント・注意点

1. **あまり人がさらけ出さないものを特化すると目立ちやすい**
ぶっちゃけてる方が面白いですし、オリジナリティもあります。
2. **たくさんのキャラを特化しない**
せっかくキャラづけしても、それが多すぎるとまったく目立ちません。
3. **そのキャラは嫌われることもある**
読者はたくさんいます。一部の方に嫌われることもあるでしょう。でも好いてくれる方もいるはず。その人をターゲットにテキストを書きましょう。
4. **全員に好かれる、または全員に嫌われるキャラをつけない**
例外はありますが、全員に好かれるキャラは、道徳的で個性がなく、面白くないことが多いです。また逆に、全員に嫌われるキャラは、客足が途絶えることうけあい。お気をつけください。

(015) ある程度反論されるテキストの方がおもしろい

前項(014)の、最後の注意点にも出てきました。「全員に好かれ、全員に嫌われる」という点は、テキストに関しても注意しなければいけないポイントでしょう。

全員に好かれる、または全員に同意されるものとは、どんなテキストでしょうか。(010)にあるように、そういったテキストは、道徳的で非の打ち所がない、そんな反論のできない文章のことです。こういうテキストは、面白くありません。何度もいいますが、ありふれているからです。道徳的なものを書くくらいなら、ある程度人に反論されるテキストを書いてください。

文章を書く手法に、「ある読者にターゲットを決め、その相手を怒らせるように書く」というものがあります。あまりおすすめしませんが、道徳的だけのテキストよりは、よっぽど味のあるテキストが書けますよ。

また、全員に嫌われるテキストも危険ですね。とてつもない悪影響を、ブログ・サイト全体に及ぼします。

一部の人に、「そんな馬鹿な」といわれるようなテキストで、オリジナリティあふれるサイトを作り出してください。

Q 04 書くことって、どうやって考えればいいの？

(016) 人が何を読みたいのか考える

相手を意識して...

自分の書きたいことを書くのは大切なことです。何せ、筆がススみますからね。しかし、こればかりでは、人をひきつけるものは書けません。あなたのテキストに、ファンをつけるのはむずかしいでしょう。

自分だけが読む日記ならいいのですが、ちょっぴりでも人に読ませたいテキストを書くなら、もうワンランク上のテーマ探しが必要。

「人が読みたいと思うことを書く」ってむずかしいですが、これにつきます。

読者の立場に立とうとする姿勢が大切

「そんなこと思いつくわけない！！」と投げ出さないでください。相手を意識してネタを考えるのと、意識しないで考えるのとでは、大きなちがひがあります。

少しでも読者の立場に立てば、どんなネタであったとしても、心なしかアレンジ・編集の仕方が変わってきます。また、そうして読者の視点が、ちょっぴりでも入ったテキストは、それだけでひとりよがりなものでは、なくなるんですよ。

自分が書きたくないモノを書くとき.....

注意点が1つあります。読者が読みたいものばかり考えて、自分の書きたくないものを書く必要はありません。

読んでくれる人が読みたいと思うと同時に、自分が書きたいことを書かなければいけません。冒頭の繰り返しですが、自分が書きたくないようなことというのは、なにせ筆がススみません。また、実際書いてみても、説得力に欠けるテキストになってしまいます。

「人が読みたいと思いたいことの中で、自分の書きたいものを探す」、基本はこれで探してください。周りの空気を読みつつ、自分も大切に！ どこかの教訓みたいですね。

ちょっぴりでもいいので、「人が読みたいと思うものは何かな」と考えてみましょう！！

(017) ネタ探しの参考にするなら...

なかなか、そう簡単に「人の読みたいもの」を探すことはできません。みつからないときは、次のように探してみるのも、いいと思いますよ。

「エッセイや、雑誌の投稿欄からテーマを探す。」

エッセイのタイトルを参考にしてテキストを書いたり、雑誌の投稿欄を読んで、それについての賛成意見、反対意見を書いたりします。

賛成反対意見を書く手法を使用する場合は、できるだけ話題性がある、または、話題の出そうなものを選べればいいでしょう。多くの人が知っている事柄についてなら、それだけたくさんの方の人の興味がひけます。腕もなるという

ものですね。

(例)

「北朝鮮拉致問題が一段落した…… というような空気が流れている。しかし私は、このことに異を唱えたい…」

(例)

ガングロギャルが騒がれなくなった昨今、「モリオ」と呼ばれる男子たちが出現するにいたった。私の視点で、私なりにモリオ達が「どうしてああいった格好をするのか」ということについて考えてみる……

こういった要領で、ニュース、テレビ、新聞、雑誌からネタを探してみてもいいかでしょうか。

(018) Q 02 を利用してネタ探し！

「人が読みたいものは何か？」これは Q002 で書いたことです。この Q をもとにしてネタを探します。例を述べてみましょう。

人が知らないこと……

初めは「読者の知らないことって何だろう」と考えていきます。たくさんみつかったなら、次に「この中で読者が気になりそうなことは？」としぼっていきます。しぼったら、さらに「これをどうやって読者が気になるようにアレンジしていいか？」と考え、書いてみてください。

ポイントは、『読者が気になる』です。ネタをしぼるときは、「読者が気になるよう、アレンジしやすいのはどれか？」と考えていくのもいいですね。

人のしていない体験……

「こんな体験をするのは少数派だろ」というあなたの体験を探してください。奇遇な体験、偶然の体験も面白いですね。不思議で関心を惹かれます。体験が大きいを超したことはありませんが、小さくても、似たような体験を人がしていなければ、十分！ ネタになると思います。

目のつけどころ……

「そういえば何でだろう…… というような疑問はないか？」と考えれば、テツ&トモさんのようなネタを探します。「今日は、人が目を留めないような細かいことに注目しよう」と 1 日を過ごせば、細部の描写も手伝って、人とは目のつけどころの違うものが書けるでしょう。

以上のように Q002 を利用して書くことを探してみてください。きっと、新しい発見がありますよ。

Q 05 書く前になにを決めるとうまく書けるの？

(019) 自分の立場を明確に

客観的になりすぎず、主観で書く

物事を客観的に見ることは大切です。しかし、あなたがエッセイ・コラムを書くとき、必ずしも客観的になりすぎる必要はありません。主観でいいのです。

物事にはいろいろな視点があります。客観的に書くということは、その全てを追おうとする行為。それは、様々なところからの束縛を受けるという理由から、とても書きにくいものです。書けたテキストも、ありふれたものになることが多く、面白みに欠けてしまいます。個人サイトなら、ニュース系テキストですら、主観の入ったものの方が、客観的なだけのテキストより「面白くていい」と私は感じています。すべてを客観的に書くのは、新聞の記事を書くときだけにしておきましょう。

主観で書くということは、視点を設定するということ

さて、主観でテキストを書くときは、はじめに自分の立場・視点をハッキリさせておく必要があります。

たとえば「リストラ」について書くなら、あなたの立場は「する側かされる側か」、または「される当人の妻か、子どもの視点か」。「恋愛の苦悩」について書くなら「男なのか女なのか」、または、「モテる側の立場なのか、モテない側の視点なのか」etc.....、というようにです。

なぜ立場をハッキリさせた方が書きやすいのか？

立場をハッキリさせておくと、書いていく上での方向性、考え方を迷わなくて済みます。なぜなら、決めた自分の立場で考えていけばいいからです。そして、客観的にならずに、あなたの視点で書かれてできたものは、それだけで人と違うテキスト。個性的で、面白いものにできあがりますよ。

日記のようなテキストを書くときは、それほど意識しなくてもいいことですが、それ以外の系統のものを書くときは、注意してみてください。客観的な映画紹介より、また、ありふれたニュース速報より、あなたの視点で書かれたものの方が、魅力的なこと間違いなしです。

(注) (014)キャラづけ 「自分」を参照してください。

(020) 誰に向けて書くのか

自分の立場を決めたなら、次は誰に向けて書くのかを決めましょう。誰に向けて書くのか決めるというのは、「ターゲットの読者を決める」ということです。

たとえば、「子ども向け？ 大人向け？」、そのテキストはどの年代の人たちに書くのでしょうか？「男性？ 女性？」「働く父へ？ 専業主婦へ？ OL に向けて？ 管理職に向けて？」どのような属性を持つ読者に向けて書きますか？ etc..... を決めましょう。

理由としては、ターゲットを決めて書けば、不特定の人達に向けて書くときよりずっと筆がススみます。また、読者の方にしても「私と同じ立場だ」と、自分に書かれているように感じ身の乗り出しようが変わってきます。

また、1つ1つのテキストごとにターゲットを絞るのもいいですが、サイトで絞ってしまった方がより効果的です。あなたのブログでは、そのターゲット層に向け、絶えず書かれるわけです。そのことにより、リピーターもつきやすく、反応も得られやすいでしょう。

「20代後半の女子学生に向けて書こう。」

などというように、ターゲットを決めて書く。ぜひ、実践してみてください。

(021) 書くことは1つに絞る

人に何かをいうとき、的を1つに絞った方がよく伝わります。たとえば、子どもへの説教。

「忘れ物をするな、そんなことだから勉強がおぼつかない。遅刻もするな。遅刻してるくせに何で忘れ物が減らないんだ」

と怒るより、

「……、忘れ物をなくしなさい！！」

と1つに絞って叱った方がインパクトもあり、何を直せばよいかが子どもにもよく伝わりそうなもの。

前置きが長くなりましたが、テキストを書くときも同じです。書くことを1つに絞ると、読者にいいたいことが伝わります。

あれもこれもと、多くのことを語ってしまうと、一番いいことが、読者に伝わりません。いろいろ盛り込まれすぎたテキストとは、何が主題なのか、読んでいてわからなくなるからです。

インパクトのあるテキストを作るためには、書く前に、ネタを1つに絞る！！これにつきます。

(つづく)